

# 公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

「いのち・愛・人権」五泉展  
～きりひらこう！ 人権と共生の世紀～

4.5

2 トピックス 年頭所感

3 視点 私のつぶやき

3 ひろば ご用心

6 実践記録シリーズ 妙高フレンドスクール

7 サークル交流 癒しのカントリーミュージック (見附市) / 友情の輪 合唱の輪 (川口町)

7 素顔拝見 野坂 公子さん (上越市) / 細山 明裕さん (長岡市)



「公民館まるごとクリスマス」  
胎内市

表紙解説

クリスマスがやってくる前に準備のため、中央公民館全室で子ども達がわくわくしながらケーキ作りや飾り付け、飾り付け用のキャンドル作り教室などに参加しました。日が暮れてからはトロンボーンの演奏でクリスマスソングをみんなで楽しく歌いました。

# 年頭所感

会長 鈴木 正行



公民館関係者の皆様あけましておめでとうございます。どうぞございます。

年の始めに自宅や職場に年賀状が届き、その後にはお年玉付き年賀はがきの抽選で喜んだり惜しがったりするのが、日本の年中行事のひとつになっています。このお年玉付き年賀はがきが最初に発売されたのが昭和二十四年、今からちょうど六十年前です。当時の景品は特賞がミシン、一等が純毛洋服地、二等が子ども用野球グローブということで、当時の世相を色濃く反映しています。

同じ年には、戦後の混沌とした時代の中にあつて「フジヤマのトビウオ」と呼ばれた古橋広之進選手の全米水泳選手権自由型での世界新記録ラッシュユヤ、湯川秀樹博士の日本人初のノーベル賞受賞といった明るい話題が国民に勇気と希望をもたらしてくれました。そして、昭和二十四年は私たち公民館に関わる者にとっての、法的拠り所である社会教育法が制定された記念すべき年でもあります。当時の人々の生

活や文化の水準を向上させ、民主主義・住民自治を普及していくために、地域に最も密着した拠点としての公民館の設置が全国的な規模で本格的に動き始めたのは、この社会教育法の制定が契機になったといっても過言ではありません。その後紆余曲折を経ながらも、六十年間この法律が受け継がれてきたこと自体に大きな意義を感じると同時に、この間現場である公民館において社会教育の振興、まちづくり・人づくりなどのために様々な活動を実践されてきた歴代の諸先輩に改めて敬意を表したいと思います。

さて、六十年は人でいえば還暦にあたるわけですが、還暦は今や現役バリバリ、そのためか赤いちゃんちゃんこや頭巾を贈るという風習もめっきり減ってきたようです。別名公民館法とも呼ばれる社会教育法も還暦を迎えましたが、その実地の場である公民館が今後ますます地域の元気の源として、また、地域の人々から信頼される心の拠り所となる存在として、輝き続けて

いってみたいと願っています。

そこで、公民館月報をご愛読いただいている県内の皆様にとりまして、今後の公民館活動のヒントになればと思います。昨年十一月に見附市において開催された中越地区の公民館関係者の研修会で、講師としてお招きした高千穂商科大学の松田道雄先生のお話の中で、特に印象深かったものをひとつ紹介させていただきます。

「人はお互いに異なる人から活力をもらうものだから、その地域だけでなく、地域内と地域外をつなぐ公民館になれば、住民にとって欠かせない『人生の学校』になっていく。」

これは、これからの公民館にとっての連携と交流の大切さを説いており、たとえば、市町村合併等の影響もあり、同じ自治体の中にあつてさえ公民館同士との交流が希薄な地域もある中、公民館関係者のやる気と工夫次第では新たな展開の可能性が生まれることを示唆してくれているのではないのでしょうか。

どうか皆様の知恵と力を結集し、各公民館にとりましてこの一年が素晴らしい年になりますように祈念いたしております。本年もどうぞよろしくお願いたします。

## あけまして おめでとうございます

昨年、何かとお世話になりました。

新春を迎えられ、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年も、皆様方のご支援・ご協力のほど、よろしくお願申し上げます。

平成21年元旦

新潟県公民館連合会役職員一同





# 視点

## 私のつぶやき

阿賀町公民館長 後藤 九一



二町二村の新設合併により、5年目を迎えようとしています。合併後も町のまちは、県内では阿賀町だけです。面積は九五二kmとなり、東京23区をしのぐ、広大な町土を有し、山林は90%を占める中山間地域であり、百二十の自治集落が点在しております。人口は年々減少し、一万四千四百弱となり、少子高齢化が急速に進んでいます。高齢化率40%、限界集落の実態調査など自治会活動の保全や核家族化による地域コミュニティの希薄化が課題となっています。景気の悪化や社会環

境の変容の中で、悲観的な尺度や都会と比較した物差では、解消されません。逆境をバネにして、明治19年に福島県から新潟県に編入される迄、七百年に及ぶ会津藩と運命を共にした両属の歴史と文化を持つ特異な町であり、それ故、しなやかにたたかに生きる精神性・作法が根付いています。公民館が地域のよりどころとして向き合う地域力を発揮できるよう、阿賀町の生活の匂いのある人間味のある町を継承したい。

# H O T N E W S

## 掲 示 板

### 平成20年度 中越地区公民館長・主事・公運審等研修会開催

テーマ  
生涯学習社会における公民館の今日的役割を探る  
公民館を取り巻く環境が大きく変わってきている中、「ひとづくり」「まちづくり」における公民館の果たす役割が問われている。単に学習機会を提供するだけでなく地域の人・技・もの・場所を十分活用し、つなぐことが求められている。今回は、実践例を通して公民館の果たす役割を改めて認識するための研修会とした。

研修主題を「生涯学習社会における公民館の今日的役割」とし、講師の高千穂大学松田道雄准教授から「地域をつなぐ公民館に行こう」の演題でご講演をいただいた。その後事例発表会を行い、閉会した。

◇期 日 平成20年11月18日(火)  
◇会 場 見附市中央公民館  
◇参加者 公民館長・主事・公運審委員等 173名参加  
◇日 程

12:30	13:00	13:20	14:50	15:00	16:00	16:10
受付	開会式	講 演	休憩	事例発表	閉会	

◇内 容

開 会 式 あいさつ 中越地区公民館連絡協議会長 鈴木 正行  
来賓祝辞 中越教育事務所社会教育課長 池田 正義 様  
講 演 演題 「地域をつなぐ公民館に行こう！」  
講師 高千穂大学人間科学部准教授 松田 道雄 様  
事例発表 「地域とともに歩む公民館」  
三糸市大崎公民館嘱託員 大竹 智子 様  
「講座を創る、まちを創る」  
見附市生涯学習プランナー実生の会会長 大川戸一敏 様  
閉 会 あいさつ 見附市中央公民館長 早川 洋介

講師の高千穂大学松田道雄准教授  
演題「地域をつなぐ公民館に行こう」

昨年の夏までは、病院と  
いうところはお見舞いに行  
くところと思っていました。  
ところが盆の最中に激痛  
に襲われ、一回目の手術が  
奇しくも六二歳の誕生日。  
そして、昨年の十二月に二  
回目の本格手術。この原稿  
の締め切り日でした。生  
まれて初めての病院生活。  
ゆつくりと養生しようかと  
構えてはみましたが、考え  
るのは娑婆のことと病因が  
気になり、心休まらないま  
ま八日間が過ぎました。



担当の外科医から「生活  
習慣病に起因する免疫力の  
低下」との説明。思い返せ  
ば、社教の現場を退職して  
三年、合併前後の混乱期：  
代休もとれないままの休日  
出勤、遅い帰宅後の夕食、

昨年四月から全委員のご  
協力をいただいて教委支所  
(地区公民館)の巡回を始  
めました。合併後、年々人  
的体制も悪くなるばかり、  
地区公民館と共に地域の存  
在も危ぶまれる状況です。  
年度内に巡回の結果を意見  
書にまとめ上申する予定で  
す。今頑張っている後輩の  
病因をつくらぬ為にも。

# ひろば

ご用心

佐渡市社会教育委員 藤井 史男

寝不足に運動不足とストレ  
ス。その付けも要因になっ  
ているようです。



# 「人権」五泉展

## 人権と共生の世紀～

五泉展は、市内の児童生徒が差別の現実や実態を学ぶ絶好の機会としてとらえて対応した結果、小学校5・6年生と中学校の全学年、約2,700人が参観を行うことができました。また、市内の高校、市外の小・中学校・高校など約350人が参観を行いました。



パネル参観の見学状況

実行委員会では、五泉展開催前、多くの小・中学校の児童生徒の参観が予想されたことから、12ページにわたる児童生徒用のパンフレットを編集し、各学校での事前学習の資料として使えるように電子データ化して各学校に配信しました。展示物は、小・中学校の児童生徒が理解しやすい内容になるように配慮するとともに、難しい漢字にはルビをふりました。

また、解説員については、新潟県同和研究協議会等のご協力をいただくとともに、東日本部落解放研究所から解説員をお招きするなど工夫をしました。

社会教育の面でも、人権教育や人権啓発をさらに進めるための機会としてとらえ、市の広報紙など様々な媒体を活用し、記念講演会やパネル展のPRに努めました。



解説員による解説の様子

#### 4. 五泉展を契機に

五泉市では、この人権展を契機に、すべての市民が人権やこれにかかわる諸問題について見詰め直す絶好の機会であったと考えています。今後は、教職員や行政職員の人権意識の向上はもちろんのこと、市民に向けての人権教育・人権啓発活動を推進していくとともに、地域や家庭における人権教育・人権啓発の活動を支援していきたいと考えています。

今回の「いのち・愛・人権」五泉展の開催が、五泉市にとって人権教育と人権啓発の面でたいへん有意義なものとなりました。



解説員による解説の様子



# 特集

## 「いのち・愛・ ～きりひらこう!」

### 1. 五泉地域で初の開催

「いのち・愛・人権」五泉展が五泉市さくらんど会館において、11月14日(金)から20日(木)までの7日間にわたり開催されました。

「いのち・愛・人権」展は、1989年に新発田市で開催以来、今回で20回目となる歴史をもっており、県内の人権、同和問題の解消に向けた契機となる事業として、大きな役割を果たしてきていることはご存じのとおりです。このような人権展開催は五泉地域で初の開催となりました。



五泉展実行委員長挨拶 (淳心寺住職：法輪弘淳様)

「いのち・愛・人権」五泉展は、五泉展実行委員会のほか新潟県実行委員会、新潟県人権・同和センター、部落解放同盟新潟県連合会の4団体が主催し、新潟県、新潟県教育委員会をはじめ、県内の市町村、教育委員会、宗教団体、労働組合など100を超える団体が参加して準備、運営に当たってきました。年度当初から打合せ会議、結成総会準備会、結成総会、事務局会議及びパネル製作専門委員会を開きながら開催にのぞんできました。

21世紀は「人権の世紀」といわれ、あらゆる差別の撤廃と、人権尊重社会の実現が強く求められています。しかし、今もって部落、いじめ、虐待、女性、障がい者、外国人などに対する差別や偏見が大きな社会問題となっています。このような

か、人権展が五泉市で開催されたことは、市民が人権への理解をさらに深め、人権意識の向上を図る一助となったものと思われます。

### 2. 外川正明さんを招いての記念講演会

11月14日は、五泉市さくらんど会館の1階エントランスホールにおけるテープカットで幕を開けました。テープカットの後、パネル製作専門委員の脇本正評さんが県内の差別の実態や事件、被差別部落が受け継いできた伝統芸能、「いじめ」、「水俣病」、「女性」などに関するパネル(1階・2階に展示)について詳しく解説されました。その後、さくらんど会館のイベントホールを会場として、オープニングセレモニーと記念講演会が開催されました。オープニングセレモニーでは、主催者である五泉展実行委員長が挨拶をし、来賓としてお招きをした新潟県知事、五泉市長から祝辞をいただきました。

記念講演会は、京都教育大学教育実践総合センター教授外川正明さんが「部落史に学ぶ～新たな見方・考え方にたった学習の視点～」をテーマに約370人の関係者や市民を前に講演されました。



記念講演会  
(京都教育大学教育実践総合センター教授外川正明さん)

### 3. 市内小・中学生・高校生が見学

五泉市教育委員会では、「いのち・愛・人権」

# 実践記録

## 130

### シリーズ

## 妙高フレンドスクール

妙高市教育委員会 生涯学習課 市民活動支援係 寺島 武司

### 1. はじめに

今、子どもたちに必要なのは「生きる力」、特に他者と関わり、人間関係をどうつくるかという対人関係力です。幼少期から家族に見守られながら大切に育まれますが、現代は、どうしても対人的な関係が希薄となるために、新たな環境に置かれたときに、自ら友人を作ったり、自分なりに居場所を確保したりすることができず、それが不登校やニート、フリーター、引きこもりなどにもつながっている。

妙高市では、どんな新しい環境に置かれても積極的に他者とコミュニケーションをとっていける適応力をもつ子どもの育成を目指し、妙高フレンドスクールとして、市内全小学校6年生を対象に国立妙高青少年自然の家（以下、「自然の家」）を会場に長期宿泊体験活動を実施している。

### 2. 妙高フレンドスクールはじまり

平成9年に旧妙高村の小学校が、5泊6日の通学キャンプを実施したことに始まる。平成18年度から市内5小学校を対象に7泊8日の日程で実施し、平成19年度から6泊7日に期間を改め、期間中を自然の家で過ごす完全滞在型へ変更し実施した。

そして、今年度からはフレンドスクールの対象を市内全12小学校の6年生とした。

### 3. 活動内容

#### ◆平日の日中

完全滞在型となってからは、平日の日中を学校教育の時間として各種体験活動を実施している。これらの体験活動は、学校の教科学習に位置づけることで、教科の時数不足や学習進度といった長期宿泊体験活動の障害を解消している。

#### ◆夜間、休日

夜間や休日は社会教育の時間として、参加児童を班分けし、活動を行った。各班には大学生スタッフがつき、活動を支援している。これら夜間の班活動は、最終日に実施する「チャレンジタイム」のための話し合い活動である。異なる学校の男女で構成される班活動では、児童が意見を出して話し合い、班で実施する内容を決定する。この他、活動場所や必要な備品、タイムスケジュールなどの詳細を決定していく。限られた時間の中で児童は協力しながら活動を実施している。

#### ◆活動プログラム

	活動内容(第1・2ブロック)	活動内容(第3ブロック)
1日目	開校式、仲間作り	開校式、仲間作り
2日目	火山学習	火山学習
3日目	火打山登山	森遊び・川遊び
4日目	野外炊事、洗濯、家族への手紙	火打山登山
5日目	森の秘密基地作り	スタンツの話し合い、クラフト
6日目	妙高アドベンチャー	妙高アドベンチャー
7日目	チャレンジタイム、閉校式	チャレンジタイム、閉校式

※夜は、毎日班活動を実施

※第3ブロックでは、6日目の夜間にキャンプファイヤーを実施

### 4. スタッフの体制

妙高フレンドスクールでは、各種関係団体などが協力して児童の活動を支えた。

- ・メインの活動場所となる自然の家の職員。
- ・夜間や休日の活動を支援する大学生スタッフ。
- ・夜間に体調を崩した児童の対応を行う看護スタッフ。
- ・学校教育課程外であるが、児童の活動を見守り、大学生スタッフへの助言や緊急時の対応をスムーズに行うための

の参加校の管理職の先生や担任の先生。

- ・主催者として、全体の活動を見守る教育委員会職員。
- ・そして今年から新たな取り組みとして、期間を通して活動の全体を見守り、支援・助言を行う全体指導者。これまで、学校教育課程から社会教育課程の時間の引継ぎや、宿泊スタッフが毎日交代することによる情報の一元化が課題となっていた。そのため、今年度から全体指導者が期間を通じて自然の家に滞在することで、この課題が解消し、学校や各スタッフとの橋渡し役として成果を発揮した。

### 5. おわりに

6泊7日の宿泊体験活動は、児童にとっては容易なものではありません。しかし、この宿泊体験活動が児童を確実に成長させたことは紛れもない事実です。

来年度のフレンドスクールは、関係団体等と協議し、期間を5泊6日として実施する。



炊事



登山

### 第1ブロックアンケート結果 (IKR 評定調査)

	初日	最終日
1	いやなことは、いやとはっきり言える	4.54 5.30
2	人のために何かをしてあげるのが好きだ	4.54 5.11
3	先を見通して、自分で計画が立てられる	4.18 4.95
4	暑さや寒さに、まけない	4.64 5.17
5	だれにでも話しかけることができる	4.34 5.31
6	花や風景などの美しいものに、感動できる	4.33 5.00
7	多くの人に好かれている	3.92 4.46
8	人の話をきちんと聞くことができる	5.05 5.33
9	自分のことが大好きである	4.00 4.47
10	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	4.46 5.16
11	自分からすすんで何でもやる	4.29 4.89
12	いやがらずに、よく働く	4.39 4.83
13	早寝早起きである	3.85 5.01
14	自分かってなわがままを言わない	4.59 4.83
15	小さな失敗をおそれない	4.68 4.91
16	人の心の痛みがわかる	4.55 5.01
17	自分で問題点や課題を見つけることができる	4.39 4.86
18	とても痛いケガをしても、がまんできる	4.24 4.70
19	失敗しても、立ち直るのがはやい	4.45 4.83
20	季節の変化を感じるができる	5.01 5.44
21	だれとでも仲良くできる	4.49 5.11
22	その場にふさわしい行動ができる	4.37 4.87
23	だれにでも、あいさつができる	5.10 5.49
24	洗濯機がなくても、手で洗濯できる	5.21 5.63
25	前むきに、物事を考えられる	4.36 4.83
26	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	5.02 5.34
27	からだを動かしても、疲れにくい	4.02 4.61
28	お金やモノのむだ使いをしない	5.07 5.33
I	心理的社会的能力	62.16 69.62
II	徳育的能力	37.51 40.90
III	身体的能力	26.43 30.29
	「生きる力」全体	126.09 140.80



癒しのカントリー

ミュージック

カントリージェントルメン

昭和25年頃、シックスワゴンボーイズと称しバンドを結成。約15年間、当事賑わったダンスホール等で演奏。後に、本来の仕事が多忙となり活動を休止。昭和60年頃、心身の活性にと復活。現在、カントリージェントルメンと改名。ボーカル2名、楽器編成7名で中央公民館で週1回練習し、少しでも元気をと頑張っています。

①中公まつりに出演(例年行事) 近年のボランティア活動



②中越地震では山古志避難先の長岡高校体育館を慰問

③市民の森開き、大平森林公園野外ステージで演奏

④まちの駅(ネーブルみつけ)で毎年3回程度出演

⑤その他、会合等のレセプションに依頼を受け出演

見附市・カントリージェントルメン 大橋 昭治 記



友情の輪 合唱の輪

コーラスかわぐち

「コーラスかわぐち」は、今年、誕生二十周年を迎えて、去る十二月七日に、『誕生二十周年記念発表会』を開くことができました。

誕生以来、町のご支援をい



ただき、二十代から七十代までの十七名が、「ベヒシユタインピアノ」の美しい響きを全身に浴びて、三部合唱をしています。合唱づくりについては、互いに聞き合い意見交換をしています。また、十五分間の「休憩」の内容も濃く、談笑の雰囲気合唱づくりが大きく作用しています。

毎年、『町芸能祭』『町クリスマス音楽発表会』『魚沼音楽の夕べ』に参加しています。合唱活動を通して、友情を深め、合唱の輪を広げていきたいと思ひます。

川口町・コーラスかわぐち 代表、指揮 金子 ヒナ 記

今年の4月に本庁の交通政策課から異動してきた細山明裕くんを紹介します。

公民館の仕事は初めてで以前の仕事とまったく業務の内容が違います。平成17年に合併し、職員の人事交流もあって、本庁の専門的な仕事から、何でも屋に少し戸惑いもあるようですがよくがんばっています。

今年は主に事務的な仕事

長岡市山古志公民館

主事 細山 明裕さん



を受けもってもらっていますが、事業の企画、運営にも携わっています。物静かで明るく、子どもたちにも好かれています。我々の仕事は地域と人を知ることから始まりますが、だいた、地域、人にも慣れてきたようです。学生の頃はテニスをやっていてスポーツマン、酒はめっぽう強くいくら飲んでも変わりません。今後の活躍を期待しています。

(山古志公民館 総括主査 斎藤 末松 記)

我が上越市立公民館のエース中のエース、野坂公子(ともこ)さんを紹介しします。本年度の県公民館大会での名司会ぶりをご記憶の方も多いことでしょう。彼女は持ち前のバイタリティ溢れる行動力で、並みいる先輩公民館職員を圧倒しています。団塊世代の社会参画を狙った「ちょいワルオヤジのアウトドア講座」や山古志・十日町に出かけた「女性講座」、児童

上越市立公民館

社会教育主事 野坂 公子さん



対象の分館事業「わだっこ公民館」など彼女の持てる力を遺憾なく発揮した素晴らしい事業を次々と企画・実施し、おじさまから子ども達まで幅広い参加者から頼りにされるイケメン女子です。昨年9月には、大学時代からの恋人とメデタク華燭の典をあげられ、公私共に充実し、いっそう輝きを増している新妻・野坂さんの今後の活躍から目が離せません。

(上越市立公民館 係長 浅野 裕子 記)

素顔拝見



# event information

## 社会教育法制定60周年記念 全国公民館研修大会

### 社会教育法60年と これからの公民館



会期：平成21年10月15日(木)・16日(金)  
会場：東京国際フォーラム [有楽町]

お問い合わせ  
全国公民館研修大会事務局 [第一航空サービス(株)内]  
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-6-3  
TEL 03-3263-1893 FAX 03-3263-1892

記念すべき60周年の大会。集え東京に!



## 恵贈資料紹介

### 伊久礼 第五十四号



三糸市井栗公民館から発行された「伊久礼」第五十四号をお贈りいただきました。

「伊久礼」の名は、井栗地区にある伊久礼神社境内にある万葉の歌碑「妹が家に 伊久礼の森の藤の花 今こむ春も常かくし見む」に由来するそうです。昭和四十九年の初刊以来、平成三年ころまでは年二回発刊し、

その後は年一回の発刊となり今回五十四号ということです。

井栗公民館藤崎館長さんの巻頭言には「三糸市内外を問わず多くの愛読者がおられ、毎年発刊を心待ちにしておられるとともに、高い評価をいただいている。」また「伊久礼」はまさに井栗地区の誇りであり、住民共有の尊い財産だと考えています。」と述べておられます。

五十四号は、紀行、随筆、俳句、短歌等十九作品が掲載されています。日常生活の中で、自然の変化や社会の動向を鋭くとらえ、自分の言葉で表現されている作品から、「伊久礼」

## 三糸市井栗公民館 刊

に対する愛着と脈々と受け継がれてきた歴史を感じさせられました。

公民館だよりを通して作品の募集を行い、毎年二十作品ほどの寄稿があるということですが、年齢層は年配の方が多く、若い方からの寄稿をどのようにしたら増やすことができかが今後の課題のようです。

A4判 30ページ  
問合せ先  
〒955-0051

三糸市鶴田4-12-7  
三糸市井栗公民館

電話 02556-388-38835  
メール igunic@city.sanjo.niigata.jp

### 雪によって生ずる諸問題解決のため、取り組んでいます

新潟県をはじめとする豪雪地帯は、豊かな土地、水資源良好な自然環境等に恵まれ、食料やエネルギーの供給地として、我が国を支える重要な役割を担っております。

協議会会員19市町村は、緊密な連携を図りながら一致協力して特別豪雪地帯の住民生活の向上を図るため、取り組んでいます。

#### 新潟県特別豪雪地帯市町村協議会

会長(妙高市長) 入村 明 (会員19市町村)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館(新潟県市長会内)  
TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

## あとがき

あけましておめでとございます。今年もよろしくお願いたします。

昨年は、経済不況や雇用問題など、社会的に大きな課題を抱えたまま年末を迎えました。少しでも早い景気回復を期待したいところ

です。公民館月報には、各公民館等の日頃の熱心な取り組みや明るい話題を取り上げていきたいと思えます。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。